

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く 山内西の子	① 基礎基本の定着と学力向上 ② 返事・あいさつ・礼儀正しい態度や言葉遣い

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 基礎基本の定着と学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	● 学力の向上	・学習状況調査、市漢字、計算検定で、基礎学力の向上に努める。 ・個に応じた指導法の改善を行う。	・全国、県学習状況調査で4教科県平均を目指す。 ・市販のテストでは学級平均8割以上の正答率を目指す。 ・武雄市漢字検定、計算検定で昨年度の平均を上回る。 ・本校の実態を踏まえながら、西部教育事務所型スタイルを取り入れた授業を行う。	・テストの前には復習の時間を確保し、テストへの意欲をもたせる。また、つまづきの多い問題を取り上げ、児童が理解できるよう指導する。 ・授業では板書やノート指導などを工夫し、学び合いを取り入れながら、教師の指導力向上のための校内研究に取り組んでいく。 ・全児童の基礎基本の学力向上を図るために、復習・個別指導の時間を朝と放課後に「やる気タイム」の時間を位置づける。 ・習熟度別少人数授業または、ICTを活用した授業を工夫し、児童の興味関心を高めるとともに学力の底上げを図る。 ・学校生活意欲や学級満足度を高め、全児童の基礎基本の学力に繋げるため、QUテストを活用する。
教育活動	● 教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・電子黒板、書画カメラ等、積極的な活用を図る。 ・授業改善に向けてICT機器の活用例を探る。	・市内の小学校の中でも、電子教科書やタブレットの利用回数を昨年度より上回る。 ・校内研究やセンター研修等で得た活用例を、教員間で共有する。	・ICT支援員と共に、ICTを活用できる環境を常に整備し、トラブルにもすぐに対応する。 ・朝の時間に、「Shu-Chu-Trainタイム」を全学年計画的に実施する。 ・職員会議や校内研究等において、ICTの具体的な活用例を紹介し、研修を行う。
学校運営	○ 低学年を中心とした学習習慣の定着	・生活・学習習慣の定着化を目指す。	・「にっこよこのくらし」を利用し、家庭と連携して、生活・学習習慣の充実を図る。 ・「にっこよこのくらし」の全項目の80%が◎になることを目指す。 ・復習プリントを利用し、児童の基礎基本の定着を図り、90点以上の習得を目指す。	・学級通信・学年通信等を利用し、「にっこよこのくらし」の実態を家庭に知らせ、家庭教育の推進を図る。 ・複数の教職員で指導にあたり、形成的評価を行いながら、学習の習熟を図る。更に、やる気タイムを活用し、計画的に一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導をし、学習・生活習慣の定着を図る。

② 返事・あいさつ・礼儀正しい態度や言葉遣い

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ 立腰三原則(挨拶・掃除・後始末)の徹底	・立腰の時間を使い、三原則を児童に知らせ、日々の教育活動の中で指導する。 ・自問清掃を推進し、掃除環境を整える。	・挨拶、返事、後始末の定着化80パーセントを目指す。(自己評価表の◎・○の児童が80%を超えるようにする。) ・無言掃除の定着度80パーセント以上を目指す。 ・掃除用具を整える。 ・常にトイレが清潔になるようにトイレ掃除に努める。	・全校朝会や集会、清掃は全校立腰で始める。 ・挨拶・返事・後始末については日々の教育活動の中で声かけするとともに「せんせいあのね」アンケートを実施し、実態を把握する。 ・立腰で掃除に取りかかり、静かな音楽を流すことで、落ち着いた雰囲気の中で掃除ができるようにする。 ・生活振り返り週間の時、無言掃除ができた児童を調べ、意識を高める。 ・環境委員会の掃除用具入れ調への徹底を図る。 ・環境委員会を中心に掃除強化週間を設ける。 ・トイレ掃除の手引き書を作り、掲示する。
教育活動	● いじめ問題への対応	・いじめを許さない環境を構築する。 ・人権同和教育の充実を図る。	・校内人権週間や人権集会の取り組みを通して自主的な態度を育てる。 ・気になる子や保護者の連絡、報告、相談などの支援体制を確立する。 ・相手を思いやる態度や言葉遣いの定着を目指す。	・校内人権週間や人権集会を通して、全学級、授業実践に取り組み、児童の人権意識の向上を目指す。 ・「せんせいあのね」を2ヶ月に1回記入させることで児童の悩みを調査し、児童理解に努める。 ・ケース会議や職員会議等で気になる児童の支援体制を整える。
教育活動	● 心の教育	・気になる子への個別支援を図る。 ・礼儀正しい態度や言葉遣いの徹底を図る。	・気になる子や保護者の連絡、報告、相談などの支援体制を確立する。 ・相手を思いやる態度や言葉遣いの定着化80%を目指す。	・「せんせいあのね」を2ヶ月に1回記入させることで児童の悩みを調査し、児童理解に努める。 ・ケース会議や職員会議等で気になる児童の支援体制を整える。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 開かれた学校づくり	・定期的なホームページ更新等、学校教育活動の情報公開を推進する。 ・保護者、地域との連携を図る。	・週に1度のホームページや月に2度の学校だよりを活用し、学校教育目標や様々な行事等を紹介し、保護者、地域住民の要望に応える。 ・保護者、地域の方に学校行事に参加しやすい環境を整備する。	・学校教育目標等は、全校朝会、PTA総会などの時間を利用して、児童保護者に具体的に説明する。 ・月2回は、学校だよりを発行し、週1回ホームページ更新をする。 ・地域の会合には出席し、情報収集に努める。 ・年8回の土曜等を開校する。 ・地域人材を活用した学習活動の機会を、各学年で年1回以上設ける。
教育活動	○ 安全教育の徹底	・校内、校外事故の0運動の展開で事故予防に努める。 ・火災、防犯等の訓練を充実させ、安全意識を高める。	・校内、校外の危険箇所を点検し、危険箇所があれば、すぐに改善の方策を探る。 ・外遊びを積極的に行うために安全管理・安全指導の徹底を図り、昨年度より大きなけがの件数を2割減らす。 ・安全管理、安全指導の徹底を図り、昨年度よりけがの件数を減らす。 ・火災、防犯訓練を計画的に実施し、児童、保護者に日頃から安全意識を啓発する。	・毎月1日を安全点検の日と定め、全職員で危険箇所点検を行う。 ・民生児童委員と協力しながら、年に1度は校区内の危険箇所点検を行う。 ・前年度発生した外傷の事故件数と内容を踏まえ、時期に応じて安全指導を学級で行う。 ・火災、地震、大雨、防犯など、時期に合わせた訓練を定期的に行う。 ・学級活動や全校指導において危機管理の指導を徹底する。
教育活動	○ 読書活動の推進	・読書活動の充実を図る。 ・家読書の習慣づけを推進する。	・8時からの全校朝読書を徹底する。 ・毎月読書冊数低学年15冊、中学年10冊、高学年8冊を推進する。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーの家読書90パーセントを目指す。	・8時から読書ができるように、チャイムを鳴らし、放送委員会からの啓発活動を推進する。 ・毎月の学級ごとの貸し出し冊数を知らせ、読書数の多い児童を賞賛する。 ・週末に本借りと家読書を勧める放送をする。 ・図書館便りを発行し、家庭にも家読書の実践や多読者を紹介する。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーでは、家読書呼びかけ、取り組ませる(毎月記録させ意識を高める)。
教育活動	● 健康・体づくり	・日常の運動習慣づけを推進する。 ・食育の授業を全学級で行い、食育の意義を浸透させる。	・完全自力登校率90%以上、休み時間の外遊びの達成率90%以上を目指す。 ・食育の授業を全学級で行い、食育の意義を浸透させる。	・全校や各学級で外遊びを推進する呼びかけを定期的に行い、走ろう週間、なわとび週間の後に児童のアンケートを行う。 ・学校栄養教諭、給食担当事務にも協力を得て、食の大切さを実感できる授業を年1回公開する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目